



® 平成 30 年 3 月 16 日 (金)

No. 14649 1部370円(税込み)

発行所

一般財団法人 経済産業調査会

東京都中央区銀座2-8-9 (木挽館銀座ビル)

郵便番号 104-0061

[電話] 03-3535-3052

[FAX] 03-3567-4671

近畿本部 〒540-0012 大阪市中央区谷町1-7-4

(MF天満橋ビル8階) [電話] 06-6941-8971

経済産業調査会ポータルサイト <http://www.chosakai.or.jp/>

特許ニュースは

- 知的財産中心の法律、判決、行政および技術開発、技術予測等の専門情報紙です。

定期購読料 1カ年61,560円 6カ月32,400円
(税込み・配送料実費)

本紙内容の全部又は一部の無断複写・複製・転載及び
入力を禁じます(著作権法上の例外を除きます)。

目次

☆カンボジアの発展と知財…………… (1)

☆【春宵一刻】写真感光板の発明…………… (11)

カンボジアの発展と知財

世界知的所有権機関 毛利 峰子¹

1. はじめに

今年、日本と友好65周年を迎えるカンボジア王国 (Kingdom of Cambodia)。2016年9月に成田空港とプノンペン国際空港の間に直行便が就航して両国は6時間前後で結ばれるようになったが、欧州主要都市からプノンペンへの直行便はない。筆者が住むジュネーブからプノンペンへの旅路は、二度の乗り継ぎが必要で、丸一日かかる。

昨年、設立50周年をむかえた東南アジア諸国連合 (アセアン) に、カンボジアも1999年4月より正式参加している。カンボジアは、国連が定める分類によると、アセアン各国のなかでラオス、ミャンマーと並んで後発開発途上国 (Least Developed Country: LDC)² に位置づけられるが、世界銀行によると、2015年より低所得国を脱し、今や低中所得国 (lower middle-income)³ である。1994年から2015年の平均

ツタダ 蔦田内外国特許事務所

弁理士 蔦田 正 人

弁理士 中 村 哲 士

弁理士 富 田 克 幸

弁理士 有 近 康 臣

弁理士 前 澤 龍

弁理士 水 鳥 正 裕

弁理士 蔦 田 璋 子

〒541-0051 大阪市中央区備後町1丁目7番10号 ニッセイ備後町ビル9階

電話 (06) 6271-5522 (代表)

FAX (06) 4964-2217

URL: <http://www.patent-osaka.jp> E-mail: tsutada3@alto.ocn.ne.jp

GDP成長率は7.6%で、今年も同様の経済成長が予想されている。海外からの投資と貿易を急速に増やしながら、自由経済の道を歩んでいる国である。

知財の分野では、2004年10月の世界貿易機関(WTO)加盟に先立ち知財関連の各法が施行され、近年、マドリッド協定議定書や特許協力条約のような世界知的所有権機関(WIPO)所管の国際知財出願登録システムにも参加した。また、日本、シンガポール、欧州特許庁等と特許登録等に関して二国間協力合意を結び登録手続を強化し、今月1日にEPOとの相互認証制度が発効している。

本稿では、筆者の2017年末から2018年正月にかけての同国滞在を踏まえ、カンボジアの現状、知財制度に関する実感を報告したい。⁴



上記、国旗「中央にクメール文化を象徴するアンコール・ワットを配置」等は、外務省HPより引用。

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/cambodia/index.html>

http://www.kh.emb-japan.go.jp/itpr_ja/00_000079.html

2. カンボジアの概要

(1) 地理・主要都市

カンボジアは、東にベトナム、北にラオス、西にタイと国境を接する。東南アジアでは最長のメコン河が、国土を北から南へ流れ、濁色の大河は大切な輸送手段として、ベトナム、南シナ海へと流れ出る。国土の中央には雨季(8月から10月)と乾季でその大きさが3倍以上異なるというトンレサップ湖があり、柱が数メートルの高床式住居や、マングローブの林を眺めることができる。日本の約2分の1弱の面積の国土に、畑、山、牧草地がひろがり、ヤシの木が空へ伸びる。そんなカンボジアの魅力に惹かれる外国人も多いそうである。公用語はクメール語、人口の97.9%が仏教徒である。

首都プノンペンには、人口の約12%が集まり、近代的な高層ビル、サービスアパートメント、ホテル、レストラン・カフェの建設ラッシュで、数か



(トンレサップ湖、高床式住居、高床式農家・畑・ヤシの木。筆者撮影。)

月で街並みが変わる。何本かの大通り、記念塔周辺の巨大なラウンド・アバウトは整然と整備されているが、市内から空港への道路が交通渋滞で動けなくなる時間帯がある。川沿いには西洋人が好むお洒落なカフェ・レストランが多く、そして暑さが和らぐ夕方すぎると路地に移動式屋台で語らう地元の人々、と、古き良き東南アジアの雰囲気を残す街である。

しかし、プノンペンには交通事故が多い。せっかく広々と美しい大通りが整備されても、バイクやトゥクトゥクが信号・車線等の交通ルールを無視して道を縦横無尽に走るのでは台無しである。整備を怠っている自動車やバイクの排気ガスも気になる。治安にも注意が必要である。スリ等の軽犯罪、バイクを使ったひったくり事件や旅行者を狙った拳銃等凶器を使用した強盗の事例が報告されている。裏通りをトゥクトゥクで通り抜けた時、現地の若者達に囲まれて警察に何かを訴えている西洋人男性の姿を見かけたこともあった。

その他の主要な都市としては、観光地として有名なシェム・リアップ(Siem Reap)とシアヌークビル(Sihanoukville)がある。内陸のシェム・リアップ国際空港には、洋の東西から多くの観光客が世界遺産のアンコール時代の遺跡群を訪れるために降り立ち、南のタイランド湾に面する美しいビーチリゾート、シアヌークビルの観光客の大半は、最近では中国からのツアー客だそうである。

(2) 生活

カンボジアの公立小中学校の壁に、その援助者の旗や名前を目にすることが多い。政府、民間、ロータリークラブ等の社会奉仕団体を通じて建物は増えているが、教室の広さと教師の数は就学児童に対して足りておらず、学校は二部制をとって